

我が国の高等教育の発展に資するため、機構の事業の基盤となる研究及び事業の検証に関する調査研究を行い、成果を事業に活用するとともに公表を通じて成果の社会への普及を図っています。

● 大学改革支援研究 大学等の改革の支援に関する調査研究

我が国の高等教育における教育研究活動等の改革を支援するため、大学等におけるマネジメントの改善・向上、質の保証及び維持・向上のための評価、質保証に係る国内外の連携及び情報の分析方法と利用環境に関する調査研究を行うとともに、機構の実施する評価事業を実証的に検証しています。また、調査研究の成果については、機構の事業の改善等に活用するとともに、社会に提供・公表しています。

1. 大学等におけるマネジメントの改善・向上に関する調査研究

大学等におけるマネジメントのあり方について調査研究を進めています。国内外における高等教育政策（または第三次教育／中等後教育政策）と大学等の機関内部のマネジメントに関して情報収集を行うとともに、内部マネジメントにおける財務情報と非財務情報の統合的な活用方法や、評価制度と資源配分の連動による政府－大学間のガバナンス関係のあり方、大学の財務情報に関する分析手法、大学の経営人材と支援スタッフのあり方などを研究テーマとして設定しています。

2. 大学等の質の保証及び維持・向上のための評価に関する調査研究

過去に実施された大学等の教育研究活動等の評価実施の結果を分析し、効果的で効率的な評価の在り方を実証的に検証しています。また、国内外の政策状況等の進展に伴う要請に対応した、今後の我が国の大学等の質の保証及び維持・向上のための評価システムの在り方について研究しています。具体的には、分野別の教育・研究水準の評価基準策定・記載事項のための分析、評価者や大学等を対象とした評価に関する検証アンケートの設計と分析等を行っています。さらに、内部質保証、学習支援、成績評価、学習成果等の評価における重要テーマについて研究しています。



『大学評価・学位研究』の刊行

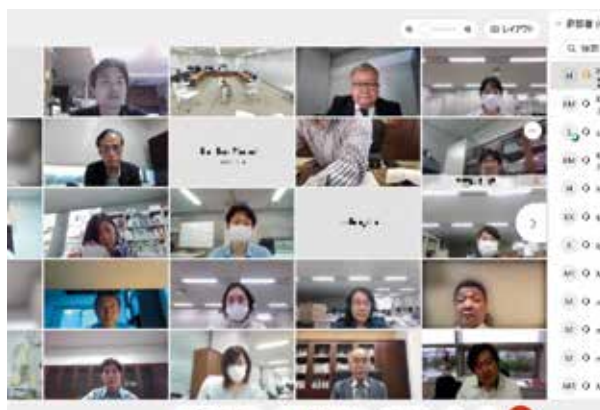
機構では、査読制度をもつ学術誌『大学評価・学位研究』を平成16年度から印刷物及びオンライン雑誌 (<https://www.niad.ac.jp/publication/tyousa/gakujutsushi.html>) として刊行しています。同誌においては、機構内外から論文、研究ノートなどの形で投稿される大学評価、学位制度等に関する研究成果の中から、第三者による査読を経て学術的意義の高いものを公表しています。掲載された論文は、平成25年3月に設置された「大学改革支援・学位授与機構 学術情報リポジトリ」にも掲載されています。

3. 質保証に係る国内外の連携に関する調査研究

諸外国における質保証制度を調査研究しています。それによって、我が国の質保証制度を改善するに当たっての参考材料とすると同時に、今後展開が予想される国際共同教育での連携を支援することを目指しています。また、調査研究から得られた知見をもとに、我が国の大学において教育研究の現場で質保証業務を担当する実務人材の能力向上に向けた教材を開発します。さらに、この教材を使って実際に大学教職員向けの研修等を実施し、大学の質保証への取組の支援を行っています。加えて、大学の国際業務担当者等を対象にしたセミナーなども開催しています。

4. 質保証に係る情報の分析方法及び利用環境に関する調査研究

高等教育の質保証のための評価において必要となる情報の収集・整理・分析・公表の手法や教育研究活動に関する指標の開発等、大学等における自己評価、及び評価機関等による第三者評価における情報の活用に関する研究を行っています。とくに、大学情報の活用の基盤となるデータベースやウェブに関わる技術開発を行い、その成果を機構の実施する評価に活かすとともに大学ポートレートの運用に反映させています。



科学研究費助成事業採択状況

機構の学術的な調査研究の一部は、科学研究費助成事業の交付を得て、国内外の研究者と協力しながら実施しています。現在実施されている研究には以下のものがあります。

| |
|---|
| 「有機無機ハイブリッドペロブスカイトを用いた光インターカレーションデバイスの研究」(平成29～令和3年度) |
| 「知的エージェントによる有害行為に対する刑事責任」(平成30～令和3年度) |
| 「大学評価支援へ向けた評価指標の妥当性チェックリストの開発」(平成30～令和3年度) |
| 「高等教育政策の転換点に関する理論的・実証的研究」(令和元年度～3年度) |
| 「高等教育における学修成果の主観的評価及び客観的評価に関する日韓台国際比較研究」(令和元年度～3年度) |
| 「アウトカムを基盤とした ASEAN 資格参照枠組みに関する研究」(令和2年度～4年度) |
| 「ドイツの大学における内部資金配分の制度と実態に関する研究」(令和2年度～4年度) |
| 「VR 体験が創造的思考と他者理解能力に及ぼす影響」(令和2年度～5年度) |
| 「利益分配原理に基づく深層強化学習の革新的進化と実問題への応用に関する研究」(令和3年度～5年度) |
| 「日本の宗教系大学における宗教文化の組織への組み込みと普及に関する組織社会学的研究」(令和3年度～5年度) |

● 学位研究 学位の授与に必要な学習の成果の評価に関する調査研究

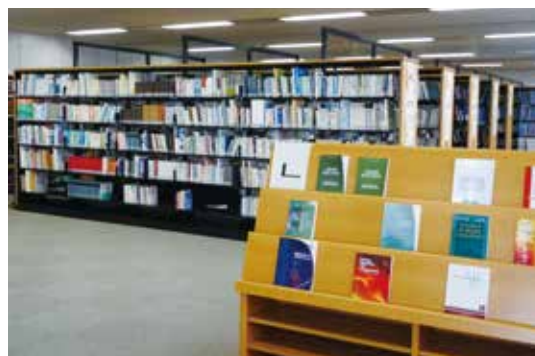
高等教育レベルの多様な学習機会を求める社会の要請を踏まえて、生涯を通じて異なる機会に異なる教育機関等で学習した者に学位を授与するために必要な学習の成果の評価に関する調査研究を行い、あわせて機構の実施する学位授与事業を実証的に検証しています。我が国の学位の質と国際通用性の確保にかかわる学位制度を中心とした高等教育研究の推進と問題提起もまた、調査研究の重要な課題です。これらの成果を機構の学位授与制度の展開に活かすとともに、大学をはじめとする高等教育機関の参考に資するよう広く公表して、我が国の学位システムの発展と学位に関する知識の普及に努めています。

1. 学位の要件となる学習の成果の評価と学位等の承認に関する調査研究

高等教育を受ける人が増え、国境を越えた人の移動も広がりを見せる中で、高等教育修了者の能力証明としての「学位」に対する関心が高まっています。学位及び他の高等教育資格が国内外の高等教育機関と労働市場で適正に承認されるための制度的条件、また、学位の授与の対象とされる高等教育レベルの学習に求められる体系的性といった問題を視野に入れて、学位・単位制度に関する理論的基盤を日本と海外諸国の比較調査に基づき把握することにより、機構の学位授与制度を支援するのみならず、広く日本の高等教育政策に資することを目的とした調査研究を行っています。

2. 機構の実施する学位授与の機能に関する調査研究

機構における学位授与制度について、個人が多様な機会に生涯を通じて行う高等教育レベルの学習の成果を、学位の取得につなげる仕組みに関する調査研究を実施しています。経済的社会的に異なる条件下でキャリアを模索する人々にとって開かれた高等教育とは何かという問題意識も持ちつつ、大学以外の教育機関等における様々な学習の成果を評価し単位認定する方法、そうした高等教育レベルの学習による単位の累積を条件とした学士の学位授与制度の意義と構築の可能性について研究しています。さらに、短期大学、高等専門学校、専門学校など短期の高等教育を終えた後に一定の学修を行って機構で学士の学位を取得した方に対して、学位審査課と協働してアンケート調査を実施し、その分析結果を機構の学位授与事業の改善に反映させています。



研究会・講演会の実施

調査研究活動の進捗と成果を共有し、また、国内外における関連分野の事業、研究の動向を的確に理解することを目的として、教員と職員が共同で研究会、講演会を開催しています。令和2年度には以下のようなテーマで開催されました。

- ・ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のアジア高等教育への影響：Reco-ASIA ウェビナーからの報告
- ・ 新型コロナウイルス感染症蔓延の高等教育及び高等教育質保証への影響 海外機関主催セミナーにおける議論の動向
- ・ COVID-19の各国高等教育への影響と対応
- ・ 国立大学法人の財務状況の推移と会計基準をめぐる議論
- ・ 提言「学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」－その狙いと期待される波及効果－
- ・ 学術機関等におけるサイバーセキュリティの現状
- ・ 大学評価の20年（日本高等教育学会『高等教育研究』第23集より）
- ・ 大学評価で何が変わったのか 現場から見た内部質保証の理想と現実